

よこいち
横市地区

大淀川の支流である横市川流域は、これまで数多くの遺跡が発見され、発掘調査が行われてきた地域です。日本に米作りが伝わった頃の水田跡の発見や、鎌倉時代の在地領主の館跡発見など、都城の歴史の新発見が相次ぎました。

①鶴喰遺跡（横市町）

古墳時代の集落跡と中世の集落跡・水田跡が見つかりました。古墳時代の集落では、縦穴住居跡が68軒見つか、中にはカマド（煮炊きする所）を持つ住居跡もありました。



馬鐸（馬のかざり）



カマド

カマドの中央には甕（現在の鍋のようなもの）の底を支える軽石の支柱がある。脇には煮炊きに使用した甕が見える。

②肱穴遺跡（横市町）

縄文時代の終わりから弥生時代初め頃にかけての集落跡が見つかりました。ここからは朝鮮半島と似たつくりの縦穴住居跡や、稲の穂を刈る石包丁などが見つかりました。



石包丁（実物の約半分の大さ）
幅：約8.7cm、高さ：約5.3cm、厚さ：約1cm
石斧（土掘り具か）

③坂元A遺跡・坂元B遺跡（南横市町）

坂元A遺跡は、縄文時代の終わり頃（晩期）～中世の水田跡が発見されており、水田の移り変わりを知ることができます。また、北部九州に稲作が伝わった頃とあまり変わらない時期に、都城にも稲作技術が伝わっていたことがわかる、貴重な発見といえます。坂元B遺跡は弥生時代の集落跡ですが、ここでは、縦穴住居を使わなくなったときに儀式が行われていたと考えられます。



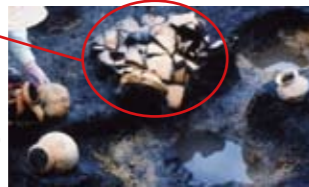
住居内に残された壺
とても大きい。

坂元B遺跡の土器出土状況（→）
壺がゴロゴロ転がっていた。



坂元Aの水田跡

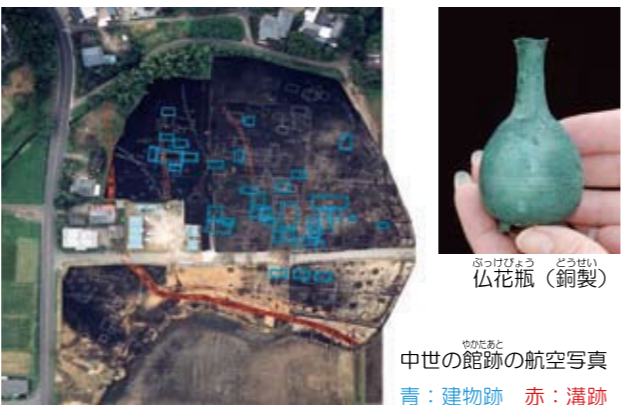
人が立っているあたりの白線内が水田の区画。現在と比べても小さく整っていない。



④加治屋B遺跡（南横市町）

鎌倉時代の在地領主の館跡が見つかりました。館は、大きな溝で囲まれていて（館の範囲：南北約140m、東西約140m）、内側にはとても大きな掘立柱建物跡などがたくさん建っていたことがわかりました。

遺跡からは、国内外から持たされた様々な焼物のほかに、儀式や宴会で使われたと考えられる土師器も大量に見つかりました。当時の都城の領主の生活を知ることの出来る貴重な遺跡です。



仏花瓶（銅製）

中世の館跡の航空写真
青：建物跡 赤：溝跡

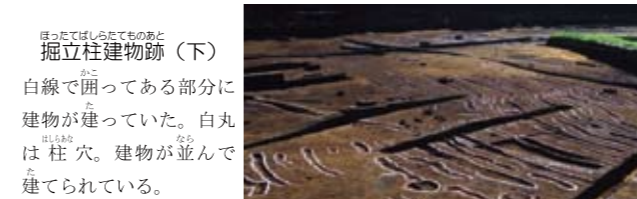
【そのほかの遺跡と史跡】

- 上牧第2遺跡：縄文時代 / 牧の原第2遺跡：縄文時代～古墳時代 / 母智丘原第1遺跡：池原遺跡・加治屋A遺跡：弥生時代
- 母智丘原第2遺跡：古墳時代 / 新宮城・畑田遺跡（水田跡）・母智丘谷遺跡（水田跡）・早馬遺跡：中世 トーチカ跡：現代
- 今房遺跡・馬渡遺跡：縄文時代・弥生時代・古代・中世 / 中尾遺跡：弥生時代～古墳時代 / 有村次左衛門寓居の地：近世
- 中尾山・馬渡遺跡：縄文時代・古墳時代・古代・中世 / 江内谷遺跡：古代 / 藁原遺跡：古墳時代・中世
- 田谷・尻枝遺跡：縄文時代・弥生時代・中世・近世・現代（戦） / 正坂原遺跡：縄文時代・古代～近世（説明はP2）



⑤星原遺跡（南横市町）

古墳時代集落跡と平安時代の集落・畠跡が見つかりました。特に平安時代では、建物が規則的に建てられていたと考えられるほか、御池軽石を敷きつめた道路跡も見つかりました。



掘立柱建物跡（下）
白線で囲ってある部分に建物が建っていた。白丸は柱穴。建物が並んで建てられている。

平安時代の畠（畑）跡↑
白線で囲っている部分が畝間。ほぼ等間隔に並んでいる。重複していないため、短期間使用されたと考えられる。



⑥平田遺跡（横市町）

弥生時代の集落からは、縦穴住居跡や掘立柱建物跡、お墓のほかに、炭状になった当時のお米やドングリも見つかりました。また、古代では両脇に溝のある幅約4mの道路跡が見つかるほか、縄文時代のお墓も見つかりました。

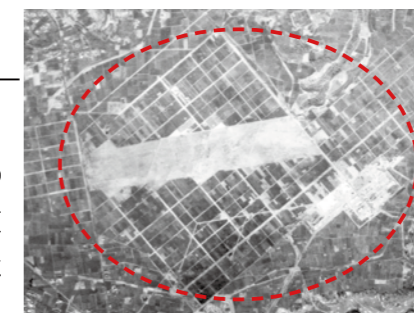


弥生時代のドングリと米

古代の道路跡（両側に溝がある）

⑦都城西飛行場跡（南横市町）

太平洋戦争の時に作られた飛行場のうちの一つです。米軍の激しい空襲で使用できなくなりましたが、ここからは10名の特攻隊員が出撃しています。



西飛行場の航空写真（昭和22年米軍撮影）



弥生時代の勾玉（粘土製）